



SUCCESS STORY 株式会社東洋マーク

KODAK TRENDSETTER スクリーン印刷に最適な製版用フィルム出カソリューション※

電源を入れて、フィルムを差し込むだけの簡単操作で
高精度・高品質な製版フィルムを出力。10色以上の重ね刷りでも、
高い見当精度を実現し、今まで以上に高難度なスクリーン印刷への挑戦が可能。

ものづくりで感動を届ける樹脂部品メーカー

株式会社東洋マークは、長野県諏訪市に本社・工場を構える樹脂部品・プラスチック部品の製造会社である。企画・デザインから樹脂板への加飾・スクリーン印刷、立体成型、抜き・切削加工まで一貫した生産体制を社内に構築し、顧客の多種多様な要望に迅速に対応している。こうしたワンストップソリューションを背景に、1968年の創業以来、電子機器や携帯電話、スマートフォン、自販機関連など多彩なマーケットニーズに応えながら大きく成長してきた。現在では主にアミューズメント関連や車載関連など、高品質で難易度の高い部品製造で多方面に事業を展開している。代表取締役の水野真志氏は「お客様第一主義に徹し、お客様に感動を与えることこそが私たちのミッション」であり「他社では嫌がられる様な仕事も大歓迎」と柔軟で独創性に富んだ技術力に自信を示している。

「導入から1年が経ちますがトラブルは一切ありません。出力準備にかかる手間と時間、版ズレもなくなり、本来の業務に集中できるようになりました」

スクリーン印刷分野の課題を解決する KODAK TRENDSETTER + TRF-IR830

オフセット印刷業界ではCTPの普及によりフィルムレス化が急速に進んできたが、スクリーン印刷、フレキソ印刷、プリント基板製造などの分野では、今でも製版フィルムが一般的に使われている。しかし、これらの現場で使われてきたイメージセッターの多くは老朽化が進み、スベアパーツや保守サービスの継続的な提供が困難になっているという。



代表取締役 水野 真志 氏



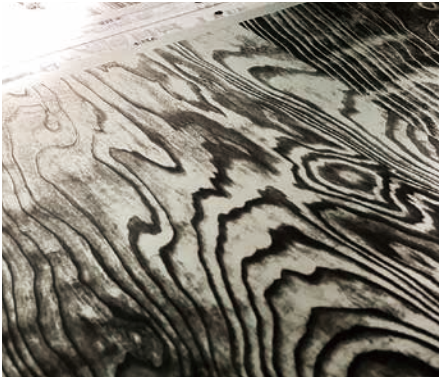
営業部 アートワーク課 課長 小林 ますみ 氏



営業部 アートワーク課 高畔 はるか 氏

※KODAK TRENDSETTERプレートセッターと三菱製紙のサーマルレーザーフィルムTRF-IR830を組み合わせたソリューション





高い精度が必要な木目調デザインなども実現



TRF-IR830 フィルムで高精細なスクリーン版を作成



6 台のスクリーン印刷機で幅広い仕事に対応

6 台のスクリーン印刷機（シリンダー印刷機 3 台・フラットベッド印刷機 3 台）を保有し、イメージセッターで製版フィルムを出力してきた同社もまた、同じような悩みを抱えていた。こうした製版フィルム問題を解決するため、コダックの販売パートナーである三菱王子紙販売株式会社では、KODAK TRENDSETTER プレートセッターと三菱製紙が新たに開発したサーマルレーザーフィルム TRF-IR830 を組み合わせた製版用フィルム出力ソリューションの販売を開始した。このソリューションにいち早く着目した水野社長は、2022 年 8 月に KODAK TRENDSETTER Q800 SA をフィルム出力装置（CTF）として導入した。

面倒な手間と無駄な時間を一掃する 現像レスのソリューション

KODAK TRENDSETTER + TRF-IR830 を導入した経緯について、水野社長は次のように語っている。

「15 年間使ってきたイメージセッターが老朽化し、入れ替えを模索していました。ただ自動現像機はどうするのか？ロールフィルムはそのままでのよいのか？など、今までの作業プロセスを一から見直して、スタッフ一人ひとりが本来の業務に集中できるシステムは何なのかを考えていました。競合製品も検討しましたが、最終的には KODAK TRENDSETTER と現像機不要のサーマルレーザー感熱方式の製版用フィルム TRF-IR830 の組み合わせが最善のソリューションだと判断して導入を決めました」営業部アートワーク課 課長の小林ますみ氏は、「作業性の良さ」が最大のメリットと指摘する。「TRENDSETTER と TRF-IR830 を組み合わせた新しいシステムでは、電源を入れてフィルムを差し込むだけで、素早く簡単に製版フィルムが出力できます。必要なときに必要な製版

フィルムを出力して、すぐにスクリーン版が制作できるので、印刷に取りかかるまでの時間が大幅に短縮できます」

同社では 1 日最大 30 枚程度のフィルムを出力することがあるが、受注のタイミングにあわせて適時、出力装置を動かしているため、従来のイメージセッターでは、現像液の補充や確認など出力前の準備作業に手間と時間がかかっていた。しかし、新しい TRF-IR830 は現像レスのドライフィルムなので、現像液の管理が一切必要ない。現像槽の洗浄など定期的なメンテナンス作業もなく、スタッフの労力は大幅に軽減され、本業に集中できるようになった。

高精度・高品質なフィルム出力で スクリーン印刷の可能性を拡大

小林課長は KODAK TRENDSETTER の精度と品質についても高く評価している。高い精度があつてこそ、作業性の良さも際立ってくるという。

「フィルムを差し込むと、機械の内部で自動的にエッジを検出して位置決めが行われるため、つねに見当精度にすぐれた高品質なフィルムを出力できます。今までのイメージセッターではフィルムに寸法ズレが発生し、専門業者に調整を依頼する必要がありました。しかし TRENDSETTER ではそのような手間はなく、ズレを心配することはありません。こうした精

度の良さも作業性の向上につながっています」それだけではない。KODAK TRENDSETTER は、独自の KODAK SQUARESPOT サーマルイメージングテクノロジーにより、シャープな画線をつねに安定的に形成できるため、絵柄の描画品質にもすぐれている。

スクリーン印刷の魅力は鮮やかな発色性とすぐれた耐候性、耐久性にある。多色刷りも多く、同社では 10 色以上の版を重ね刷りする難易度の高い仕事も手がけている。絵柄を刷り終えた樹脂版を立体成形・切削加工して完成する製品もあるので、印刷段階で版ズレがなければ、フィルム出力・印刷のやり直しがなく、時間とコストを無駄にしない。水野社長は、KODAK TRENDSETTER + TRF-IR830 の高い品質と精度が、スクリーン印刷の可能性を拡大したという。

「TRENDSETTER と TRF-IR830 のおかげで超高精細なスクリーンが利用可能になり、木目やレーザー調など、プラスチックにはない風合いや質感を再現した新しいデザインも視野に入ってきました。今後は車載向け内装部品など新分野への挑戦も可能になると期待しています」長年にわたってオフセット印刷業界で確かな信頼と実績を重ねてきた KODAK の技術が、スクリーン印刷の高品質化にも貢献している。

株式会社東洋マーク

代表取締役：水野 真志

本社工場：〒392-0015 長野県諏訪市大字中洲 5465

TEL：0266-52-1470

第二工場：〒392-0015 長野県諏訪市大字中洲 2949

<https://toyo-mark.com/>



コダック ジャパン

<https://www.kodak.com/ja>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265

福岡：050-3819-1270 札幌：050-3819-1250